

肺がん手術現状解説

製鉄記念
室蘭病院
市民対象にセミナー

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の「第30回がんセミナー」が7月28日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、市民らが肺がん手術の現状などに知識を深めた。約40人が参加。長谷龍之介呼吸器外科長が「肺がんに対する低侵襲手術」をテーマに解説。長谷科長は、肺がんは「今後も増え続ける」と予想される」として上で、進行度や遠隔転移の有無などによって、手術、放射線療法、抗がん剤治療が選択されている現状などを話した。



肺がんの低侵襲手術などを解説する長谷呼吸器外科長

また、手術については標準開胸手術、胸腔鏡補助手術、完全胸腔鏡手術の3パターンを説明。長谷科長を含めて、道内では呼吸器外科専門医13人が行っている完全胸腔鏡手術は「痛みを小さくすることで、肋間筋を温存し、呼吸機能の低下を少なくすることができると」などと強調。さらに「長時間を要し、難易度が高い手術だが、患者の身体の負担が少なくなるため、術後の回復期間を短くすることが可能」と、小さな傷で行える術式のメリットも説明。市民らは完全胸腔鏡手術に、理解を深めていた。（松岡秀宜）